

平成 26 年度地域医療・介護連携推進事業 一関コミュニティFM（FM あすも）番組  
放送日：平成 26 年 11 月 12 日（水）17：20～17：35（塩竈一常 GET KING!!）  
（再放送：11 月 16 日（日）9：10～9：25 REFRESH!!）

「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」

第9回放送 社会福祉法人一関市社会福祉協議会 村上光一 在宅福祉課長

（聞き手：FM あすも 塩竈一常）

**塩竈** 「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」さて、私たちが住むこの一関市では高齢化が進んでいます。そんな中、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう医療から介護への切れ目ないサービスを目指して、様々な分野で取り組みが行われています。この「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」は、医療機関や介護施設の役割、利用方法などを医療、介護、そして福祉の関係者、私たち市民が共に理解、協力することを目的に一関市健康づくり課の提供でお送りします。

**塩竈** さて、今日の「医療と介護の窓」のコーナーなんですが、一関市の社会福祉協議会、ここで「地域福祉活動計画」というのが作られたそうです。今日は、社会福祉法人一関市社会福祉協議会在宅福祉課長の村上光一さんにお話を伺います。

**塩竈** 村上さん、どうぞよろしくお願ひします。

**村上** よろしくお願ひします。

**塩竈** 先週のこの時間帯、「ちむぐりさん」のコーナーでは、一関市社会福祉協議会の取り組みについていろいろお話を伺ってきたんですが、村上さん、改めてこの一関市社会福祉協議会、地域の皆さんはもちろんなんですけれども、この地域で社会福祉に関わっていらっしゃる方、それから医療機関、教育機関いろいろな皆さんが参加している集まりということなんです。みんなが安心して暮らすことができる、そういった「福祉のまちづくり」の取り組みを行っているということ。さて、今日、村上さん

にお越しいただきまして、今日はですね、この社会福祉協議会の皆さんが取りまとめました「一関市地域福祉活動計画」についてお話を伺っていきたいと思います。今、手元に冊子、それからパンフレットも頂いたんですけども、村上さん、これは6月に活動計画書というのを作成されたそうですね。

**村上** そうです。住民の皆さんと意見を交換したり、ご意見をまとめながら、タイトルが「支え合い 幸せ感じる 地域の暮らし」ということで、交流あるいは支援、お互いに安心して暮らせるまちづくりを目指そうということで活動計画を作成したわけです。

**塩竈** この「医療と介護の窓」のコーナーでも様々なその分野の皆さんにお越しいただきまして、何よりもその地域の皆さんそれぞれが、取り組みについて、まずは理解をしていく、知識を得ていくというところから始まって、そこからその支え合っていくというまちづくり、いろいろ関わっていきましょうというお話をしているんですけども、その行きつく先に、この基本目標にあります、その幸せを感じる地域の暮らし、これがきっと待っているであろうと。この基本目標に基づいて、こういった具体的な取り組みというのをやっていくんでしょうか。

**村上** 地域で安心して暮らせるっていうのは具体的に大変難しいことなんですけれども、ここ10数年で、目まぐるしく医療や介護保険制度や仕組みが整いました。しかし、いくら施設があっても制度が充実した都会でもですね、最近、だからと言って都会では安心だとは言いきれない

という話になっていますね。ですから健康で安心して暮らしているけれども、歳を重ねるたびに、または、体力が低下し健康の不安が募るわけですけれども、65歳から10年間、ちょうど学校に通った期間を過ごすわけですから、長い期間ですね、不安があるということを考えています。

**塩竈** 一関の場合なんですけれども、60歳以上だと人口に占める割合というのは、どういう感じなんでしょうか。

**村上** 既に65歳ですと30%を過ぎていますし、60歳以上であれば4人に1人ということになるかと思います。

**塩竈** 今お話にありましたように、その医療の制度であったりとか、介護の仕組みというところがね、いろいろなものがありましたけれども、そこをこう利用していく側、利用してもらえ側というところのその気持ちの面と言いますかね、いろいろな取り組みというものを求められるというのをこれまでのコーナーでもご紹介しています。村上さん、最近ですね、こういった健康で安心して暮らすということについて、いろいろ考えたりとかそういう機会があったそうですね。

**村上** ええ、今年の夏ですけれども、病院の待合室ですね、元気になったバリバリで現役の50代の患者さんですかね、そういう方がおられまして、お医者さんから入院したわけですけども「手術は成功したから、これまで以上に散歩しなさい」と言われてました。その患者さん曰くですね、「今までは4、5キロ歩いていたところが暗い河川の土手際だったようで、もしそこで倒れたら今ここにはいないな。」とか言いながら、これからは人目を気にしてですね、人目を多いところを歩くべきだという持論を述べていましたね。

**塩竈** なるほど。これまで以上に散歩をするということだから、いつも通りのその散歩のルートというところを考えたかということ、ご自身が

その病気をこうされたというところからもあるかも知れませんが、なるべくいろいろな皆さんに関われるような、そういった場所を選んで、これからは散歩しなきゃいけないなという感じられた。

**村上** そうですね。例えば一般でも熱中症なんかもあるわけですので、やはり淋しいところとか1人で散歩するとかでは、何かあったらどうしようと一層思いがあったようですね。

**塩竈** これ50代の方でこう感じていらっしゃる、これからまた60代70代になってくると、その健康的な不安というのは皆さん出てくるかと思うんですけども、特に地方になると、その高齢の方々、1人暮らしの方というのも多いわけですね。

**村上** 都会では「向こう三軒両隣」ということで、まあ近くですから、それは良いでしょうけれども、この地方では冬場は特に、外に出ることもないし、ちょっと遠い距離ですよ。

**塩竈** いろいろな皆さんがそういった安心を共有していくというのはすごく大事なことで、いろいろなそういった工夫というのをこれからも凝らしていかなきゃいけないわけですよ。

**村上** ここは住みやすく、都会よりも何となく自然に安心感を持っていると思います。どこかに、誰かがこう見守っているという、何となくどうにかやっていけるという地域ごとの工夫ができていのかなど、そういう予感立ちますけれども、でも誰もが、安心して共有するのは大事だと思っていますけれども、これからは工夫というのが、最近都会では話題になっております。

**塩竈** 例えばどういった感じの工夫っていうのを皆さん考えていらっしゃるのでしょうか。

**村上** そうですね。近くに毎回同じ時間帯に出勤される方のサラリーマンさんにですね、ボラ

ンティアをお願いできないかっていうお話がありますね。出勤する時に、街灯が点いているかとか郵便物がたまっていないかとか、あとはカーテンが開いていなかったとか、そういうことをちょっと気づいたら近くに連絡するとか、そういうようなことをお手伝いしていただけないかという話ですね。

**塩竈** なるほど。

**村上** それから井戸端会議ということになると思うんですが、街角とか、あとは散歩とか、買い物とか、それから公園、野菜畑でも一緒に行って休憩しながら話し合ったりするということが、地域ごとで見守りが共有できないかという、早い話が情報が飛び交うようなことであれば不安がいくらか解消されるんじゃないか、淋しさがなくなるんじゃないかなということの話が出ております。

**塩竈** そうなんですね。先程もお話がありましたけども、昔で言う「向こう三軒両隣」という言葉がありますけれども、その例えば、何か道を行き来している時に街灯が切れているなんていう時に、しかるべきところに連絡を試みたりとか、それから街角、それから買い物先などで、ご近所のいろいろなね、ここでこういうのがあったよなんていう、そういったお話をしていくっていうのは、かつて、こうあった光景ではあるんですけども、最近ではだんだん失われつつあって、改めてその当時のそういった繋がりというのが大事だったんだっていうのを見つめ直した方っていうのは結構多いのかもしれないですね。

**村上** これからの話になりますけれども、実はこれからの世代は最もこういうことが苦手で、男性の方は特に、そういう方がこれから増えていくんじゃないか、さりげなく気遣い、それから困った時に遠慮なく、そう簡単にできそうじゃないですよ。

**塩竈** 私達が子供の時というのは周りにそういうことがあったなと思って、それで、今また

大人になってみると、また、改めてそういったものというのが必要だなと感じる。となると、ちょうどその間のその世代と言いますか、やはり個人が大事であったりとか、そういったところを重視していた時代というのが確かにありましたので、そういった世代の方々からすると付き合いであったりとか、ご近所付き合いというのは新たに作り上げていく、それも年齢が高くなってくるとなかなか難しいというのが確かにあるかもしれませんね。

**村上** そうですね。やはり集まる環境に興味を持ったり、誘われたらお互いに何か共感しながらというのが、それがこれからの地域づくりの第一歩かも知れませんね。

**塩竈** こういった地域づくり、まずは、そのいろいろな皆さんとこう関わる集まる環境に皆さんに訪れていただくというそういった取り組みは、実は一関の中にもいくつかあるようですね。

**村上** このなのはなプラザの3階にお手伝いしているシニア活動プラザというのがあり、社会参加を応援しております。そういうところにご相談したら良いかと思えます。それから足腰が弱くなって、あまり遠出できない方は社会福祉協議会で呼びかけている「ふれあいサロン」もその集まる方法の手段のひとつですね。

**塩竈** この他にもまた住みよい地域をこう作り出して行くというところで、村上さん感じられることっていうのがいくつかあるようですが。

**村上** こういふその地域をつくるというのは、なかなか一長一短にできなくてですね、やはり住みよい地域を創造するには、ねばり強さや継続が大事ですね。地域の取組の例で言えば、神楽のような数百年もの地域の伝統を慣習化して受け継ぐという努力がこれからは必要かも知れませんね。

**塩竈** このこういった地域の伝統というのを受け継いでいる方々とかうお話をしたりすると、何かその受け継いでいる喜びというところが、

何よりもその住民の皆さんと繋がっている一体感が嬉しいからと答える方が多いんですね。

**村上** そうですね。

**塩竈** 先程のお話の中でね、病院で村上さんがお会いになった方のお話の中で、これから先というのは、これまでは1人で散歩するルートを決めていたけれども、できるだけその地域の皆さんと関わることができるような生き方というのができてきたら良いなあなんていう、そういったお話もありましたね。お互いのその見守りというのを共有していくという、そういう生活サイクルであったりとか、この住民お互いがやることができたなら良いのかななんて思います。いろいろその安心感を高めるっていうのは自分自身だけがそうやっていくのではなく、その仲間づくりであったり、また、その地域づくりに関わることでその安心感にもちろん繋がっていくっていうところが今日お話で分かっていきました。あのこれから先ですけれども、こういった地域づくりをしていく中で、村上さんがこう感じる、こういったところを改善するべきだっというお感じのところなど何かありますか。

**村上** これから福祉を支えていくにはですね、やっぱり看護師さんとか介護職員の皆さんの人材確保が難しいという世の中ですね。今、若い若者世代の方は都会に行くということで、大変都会の方に向けておりますけれども、これが続けばですね、同様に介護職員不足でなくて、裏を返せば後継者の不足にもなるし、介護する環境もますますこれから大変になっていくと思います。地域をどう支えるか、これは全国的な問題なんですけれども、今後過疎化がとどまることをしれませんが、安心して暮らせる、地域は少なくとも今生活しているこの場所でもう少し皆さんの力で頑張っていかなきゃならないということで、ひとつ自分からより安心が得られる様な見守りを共用するってことが大事かなと思っておりますね。

**塩竈** これまでは私達が成長していく中で、その世の中のいろいろその地域との関わりって

うのは時代によって変わってきて、特に個人というのが大事にされたという時代もありますし、それから、その前というのは、住民同士の繋がりがまた強い、また強すぎるっていうところでまたその個人主義というところを求めたっていう流れもありましたけれども、いろいろなその経験を元にして、その程良いそういった皆さんその地域の中での、その関わり方であったりとか、その方法というのが一体どこに在るのかっていうのを、皆さんそれぞれその知恵を出し合いながら作っていくっていうのがとても大事なんだなっていうふうに感じました。この一関市の地域福祉活動計画の概要版が今手元にあります。スローガンが「支え合い 幸せ感じる 地域の暮らし」住民が安心して暮らせるまちをつくる、また、住民お互いが交流して支援もできるそういった環境、地域をつくっていく、何よりも住民の参加を高めていく、いろいろなその活動というのがあります。いろいろな具体的な活動というのが行われるかと思います。その時には、また村上さんお越しいただきまして、いろいろこういったところでは、こういうふうに関わっていただきたいという話をお伺いできればと思います。今日スタジオにお越しいただきましたのは、社会福祉法人一関市社会福祉協議会在宅福祉課長の村上光一さんでした。村上さん、ありがとうございました。

**村上** ありがとうございました。

**塩竈** 良い仲間というのが、近くにいるかもしれません。それをぜひみなさんにも探していただく、そういった仲間同士でお互い見守ることが、まずは、まちで安心して暮らす、そのキーワードにつながっていくんですね。

**塩竈** 一関では高齢化が進む中、住み慣れた地域で安心して暮らせるように、医療から介護へ切れ目ないサービスを目指しています。「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」のコーナーでは、医療機関、介護施設の役割、利用方法など医療、介護の関係者、また今日お越しいただいた福祉の関係者の皆さん、そして私たち市民が一緒に理解、協力することを目的に

お送りしています。地域医療体制の充実のため、  
私たちも積極的に関わっていきましょう。「医療  
と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」こ  
のコーナーは一関市健康づくり課の提供でお送  
りしました。